
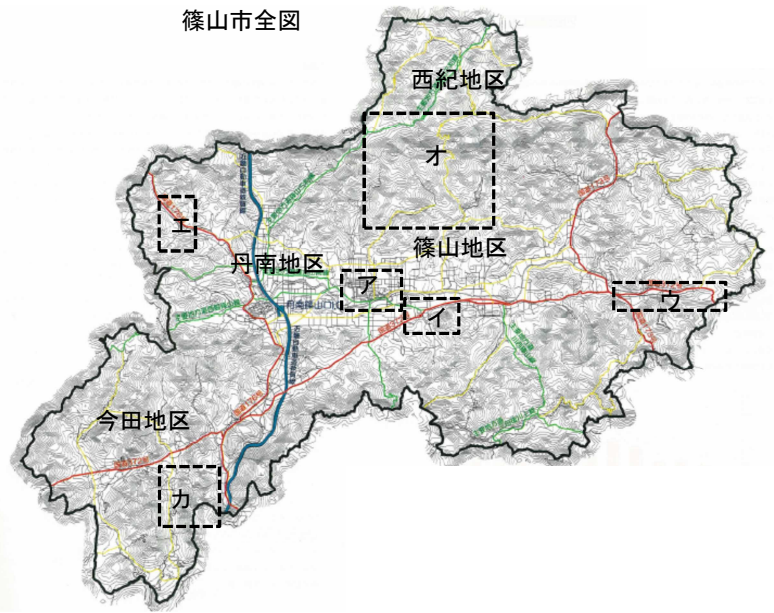


① 申請者	篠山市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶-			
④ ストーリーの概要(200字程度)			
<p>かつて城下町として栄えた丹波篠山の地は、江戸時代の民謡を起源とするデカンショ節によって、地域のその時代ごとの風土や人情、名所、名産品が歌い継がれている。</p> <p>地元の人々はこぞってこれを愛唱し、民謡の世界そのままにふるさとの景色を守り伝え、地域への愛着を育んできた。</p> <p>その流れは、今日においても、新たな歌詞を生み出し新たな丹波篠山を更に後世に歌い継ぐ取組として脈々と生き続けており、今や300番にも上る「デカンショ節」を通じ、丹波篠山の街並みや伝統をそこかしこで体験できる世界が展開している。</p>			
			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	篠山市教育委員会 社会教育・文化財課 村上 由樹		
電 話	079-552-5792	FAX	079-552-8015
E-mail	murakami-yoshiki@gw.city.sasayama.hyogo.jp		
住 所	兵庫県篠山市北新町 41		

### 市町村の位置図 (地図等)

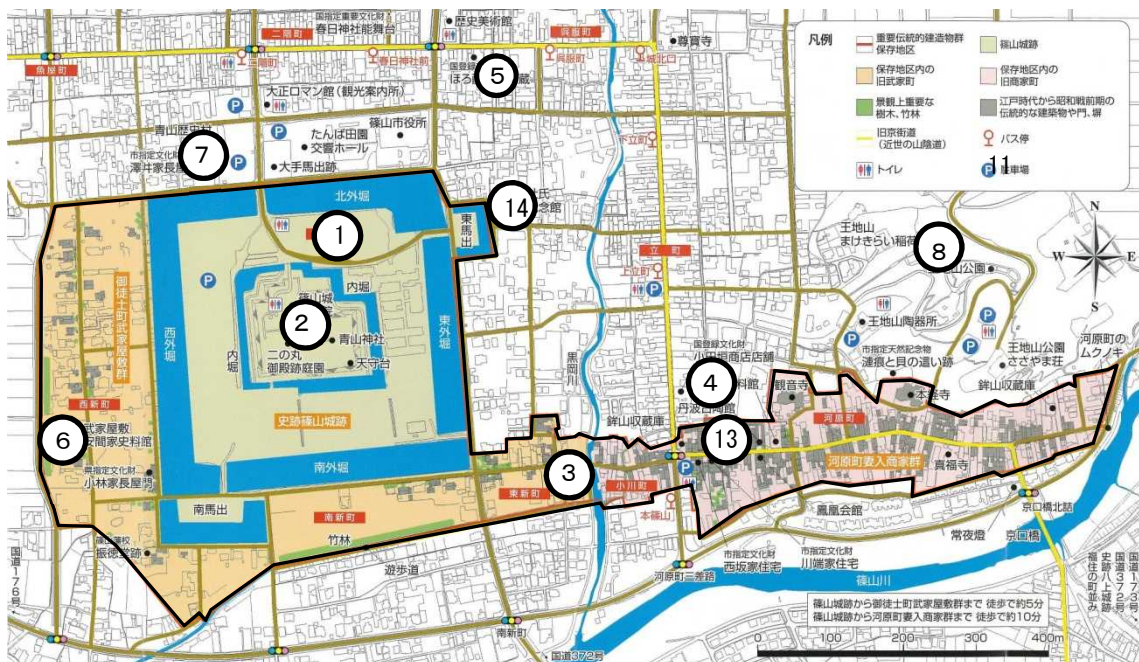


篠山市全図

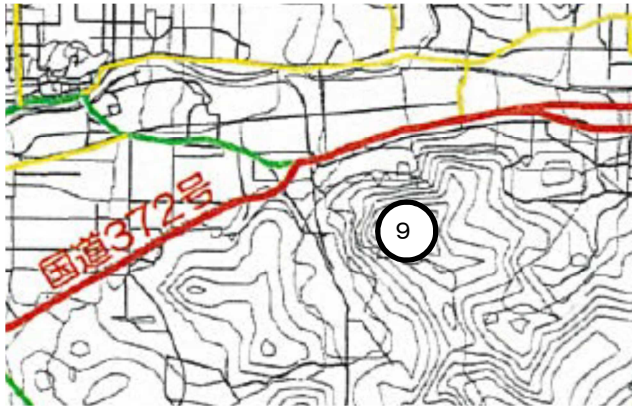


### 構成文化財の位置図 (地図等)

ア 城下町地区



イ 八上地区



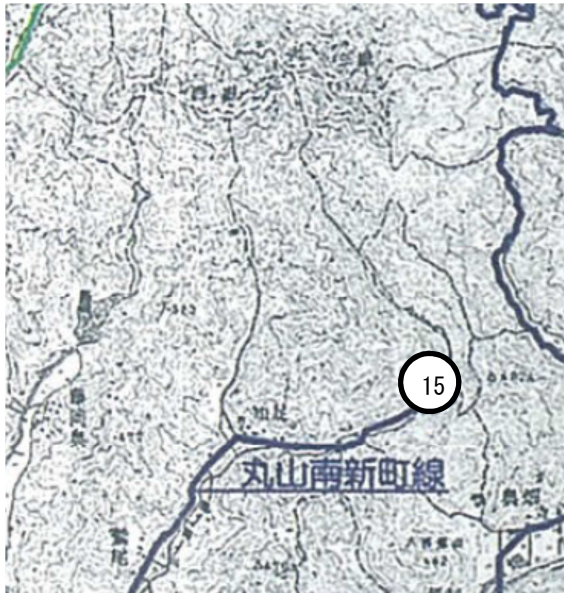
ウ 福住地区



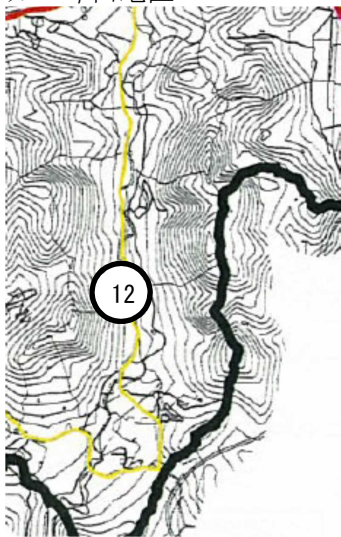
エ 大山地区



才 城北地区



力 今田地区



## ストーリー

## デカンショ節と伝統の生きるまち

大阪から電車に乗り北へ約1時間、さらに篠山口駅からバスで東へ5キロ、逞しい緑の山々に囲まれた盆地、これがデカンショ節の発祥地丹波篠山である。中央に天下普請で築かれた篠山城があり、天守台に立てば、去り難い情懷を誘う町並みと山並みを一望することができる。城下町を中心に、宿場町、農村集落、窯業集落などの町や集落の景観、全国的にも著名な黒大豆や山の芋などを生産する田畑、緑豊かな山林や山並み、オオサンショウウオの棲む清流、京文化や播磨地方の影響を受けた様々な形態をもつ祭礼などの伝統文化を含む重層的な歴史や文化が伝えられている。デカンショ節は、こうした伝統の生きるまちの中で、人々が200年に亘り、その時々思いを込めて育んできた民謡である。



デカンショ祭(篠山城跡)



春日神社能舞台 元朝能

## デカンショ節の由来と変遷

囃子言葉の「デカンショ」の語源は「ドッコイショ」が転化したものなど諸説あるが定かではない。その始まりは、江戸時代から歌われていた盆踊り唄「みつ節」とされる。かつて盆踊りは一年中続く厳しい農作業や労働に明け暮れた人々にとって、かけがえのない楽しみのひとつであり、夜明けまで歌と踊りが途切れることはなかった。このころの歌詞は素朴なものが多く、自然の情景に農婦の糸紡ぎや焼物の作業工程などの様子を織り交ぜたものなどが見られる。

明治に入ると、篠山藩主や多くの家老たちは、東京に居を移すこととなる。デカンショ節の筆頭に歌われる「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で 芝居する♪」はこの頃のことを歌い込んだものと思われる。

明治31年(1898)の夏、千葉県館山の江戸屋(旅館)において遊学中の篠山出身の学生たちから旧制一高(現東京大学)の学生にデカンショ節が伝わり、多くの若者達の共鳴を受けたデカンショ節は全国各地に広まっていく。

「一弦の琴」(宮尾登美子著)や「一高ロマンス」(大佛次郎著)には、学生たちの間で愛唱される様子が描かれている。こうして、明治中頃から大正にかけて、デカンショ節は、書生節としての雰囲気歌詞を加えながら全国を駆け巡り、かたやこの頃から始まる新聞社等による新作歌詞の募集では、篠山城、八上城などの文化遺産や黒豆や栗などの産物を題材に、ふるさとへの思いを歌詞に刻みこんだものが多く登場し、さらに郷土色豊かな民謡へと厚みを増していった。



波々伯部神社の祭礼

昭和に入ると、丹波篠山も徐々に戦争の渦に飲まれていく。「春日まつりだ 銚山神輿、いのる武運を 神かけて♪」前線にいる郷土の若者に送られた慰問絵葉書には、郷土の祭の情景に無事を祈る思いが込められたデカンショ節の歌詞が記されていた。



デカンショ祭(篠山城跡)

戦後、それまで各地区で行われていた盆踊りを統一、民謡デカンショ節と踊りが一体化していく。昭和28年(1953)に第1回デカンショ祭りが河原町の河川敷で開催され、デカンショ祭りが誕生する。篠山城跡に会場を移し、人々は地域や団体で連を編成して参加するようになり、祭の規模は徐々に拡大、兵庫県を代表する夏祭となる。昭和45年(1970)には日本万国博覧会に400人が浴衣を着て出演する

など、日本の高度成長期を背景に、地域の人々は、こぞってデカンショ祭に情熱を注ぎ込んだ。この頃のデカンショ節には、「世界平和」、「テレビ・ラジオ」、「国体」など近代的な言葉による明るい歌詞が加えられていく。

デカンショ節は、それぞれの時代が描かれた連綿と続く時代絵巻であり、ふるさとの記憶である。



丹波焼 登り窯

### 歌い継がれるデカンショ節

毎年8月15日・16日、町家の軒先の提灯に火が灯される頃、篠山城跡に組まれた櫓から、デカンショ節が聞こえてくる。

デカンショ祭は、盆踊りから受け継いだ親しみやすさがあり、踊りの輪に気軽に誰でも飛び込める気安さがある。また、地元の高校やデカンショ節保存会では、デカンショバンドやジュニア競演会などに力を入れており、祭りは日頃の成果を発表する場であると共に、あらゆる世代が楽しみにして参加する「ハレ」の場となっている。



高校生によるデカンショバンド

人々は、歌い継ぐことを通じて、民謡の世界そのままにふるさとの文化と伝統的な暮らしを守り伝えてきた。300番を超えるデカンショ節の歌詞に、今も人々は新たな時代を投影し、新たな丹波篠山を後世に歌い継ぐ取組みを脈々と続けている。

### デカンショ節からのメッセージ

デカンショ節を歌うとき、人々は、先人がいかに地域の文化遺産や産物を大切に、そして誇りにしていたかを知る。文久元年（1861）建立の能舞台、そこで行われる元朝能、そして城を囲む武家町と商家町など守り抜き残された景観が、その思いを伝えている。また、昭和56年（1981）、城下町地区にある明治24年（1891）建築の地方裁判所が、都市計画道路上にあることから壊されようとした時、地域の人々の懸命の努力により、曳家工法で方向転換し建物を残したことは、何を大切にすべきかを示すエピソードとして語られている。



城下町の町並

農村の暮らしの中で、デカンショ節に縁深いものとして丹波杜氏がある。「灘の名酒は どなたがつくる おらが自慢の 丹波杜氏♪」は、灘五郷の酒を天下に高く知らしめた丹波杜氏が、地域の人々の誇りとなっていることを示している。また、作陶の様子がユーモアを交えて歌われている丹波焼は、多くの窯元は半農半陶と言われるスタイルで陶器を作っていたことで、大規模化することなく、のどかな窯業集落の景観と作陶の技を伝えている。デカンショ節は、こうした暮らしを明るく歌に刻むことで、丹波篠山の人々を鼓舞し応援し続けてきたのであろう。



丹波焼製造風景

デカンショ節には、人々の喜怒哀楽や心意気、希望、誇りと共に、地域の文化遺産や産物が歌に織り込まれてきた。歌われるたび、歌の中の風景が、地域の人々の共通の風景となり心を繋いでいく。そして、デカンショ節は、歌の世界そのままに残る多種多様な文化遺産や産物、かけがえのない風景を後世につたえることの大切さを人々に語りかけている。



## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	でかんしょぶし デカンショ節	市無形 (民俗)	江戸時代から続く民謡「デカンショ節」は、明治31(1898)年、篠山出身の遊学生たちから旧制一高(現東京大学)の学生たちに伝わり、「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で芝居する♪」で始まる歌は、たちまち多くの学生や若者から愛唱され全国に広まった。 歌詞には、天下普請の篠山城をはじめ、伝統的な特産物である丹波黒大豆・丹波松茸・ぼたん鍋、日本の酒造技術の礎となった丹波杜氏の姿など数多くの歴史文化関連資産が歌いこまれ、有形・無形の文化を伝えている。	
2	ささやまじょうあと 篠山城跡	国史跡	デカンショ節「並木千本 咲いたよ咲いた 濠に古城の 影ゆれて♪」他幾度となく歌詞の中で歌われる篠山城跡は、天下普請により慶長14年(1609)年、徳川家康が山陰道の要衝に築いた城であり、平成12年には大書院が復元され一般公開されている。現在は、三の丸跡をデカンショ祭の主会場とし、篠山城跡の存在は市民の心のシンボルとなっている。	
3	ささやまじょうかまちちく 篠山城下町地区	国重伝建・未指定 (文化的景観)	デカンショ節「オラが殿さは 六万石よ 今じやのどかな 城下町♪」と歌われる城下町は、篠山城跡を核とし、江戸時代の武家町や商家町の町割りを残すなど城下町の要素を全体によく残している。デカンショ祭りが行なわれる8月には提灯などで町中が彩られ、情緒豊かな歴史的風致を伝える。	
4	おだがきしょうてん 小田垣商店 (店舗他9件)	国登録有形 (建造物)	デカンショ節「丹波篠山お茶栗さんしょ 野には黒豆 山の芋♪」と歌われる篠山の特産物のひとつである黒豆(黒大豆)を扱う小田垣商店は、塗屋づくりの重厚な外観を見せ、18世紀後期の老舗商店の屋敷景観をつくっている。	
5	ほうめいしゅぞう 鳳鳴酒造 (主屋他8件)	国登録有形 (建造物)	デカンショ節「酒は呑め呑め 茶釜でわかせ お神酒あがらぬ 神はない♪」と歌われる酒を造り続けている造り酒屋のひとつが鳳鳴酒造である。主屋は街路に面したむくり屋根の切妻造、つし2階で、吹き抜けて店舗も兼ねる。	
6	きゅうあんまけじゅうたく 旧安間家住宅 (現武家屋敷安間家史料館)	市有形 (建造物)	デカンショ節「丹波篠山鳳鳴の塾で 文武きたえし 美少年♪」と歌われている鳳鳴の塾(現県立鳳鳴高等学校)は、藩校振徳堂を前身とする。安間家は藩主青山家の家臣で御徒士町の下級武士であったが、振徳堂において和算の指導にあたり学問の振興に努めた。現在は武家屋敷安間家史料館として、和算関連史料等を展示し当時の武家の暮らしを伝えている。	



7	あおやまれきしむら 青山歴史村 (旧澤井家長屋門、青山文庫、丹波篠山藩「青山家」古文書、大学衍義補版木他)	市有形 (建造物、典籍、古文書、歴史資料)	デカンショ節「論語孟子も 読んでは見だが 酒をのむなど 書いてない♪」青山歴史村(旧青山家別邸)に残る「大学衍義補(だいがくえんぎほ)」(寛政4年=1792)「通鑑覽要(つがんらんよう)」(天保5年=1834)「刪訂古今文致(さんていこきんぶち)」(慶応3年=1867)の三種類の版木(約1200点)は、いずれも篠山藩が翻刻したもので、これら漢学書関係の版木は全国的に珍しい。また、青山文庫の和漢籍655点は近世国文学の一般資料となっており、漢籍・歴史・地誌など学問を尊んだ篠山藩の気風を伝える書籍も数多く残されている。
8	おうじやまいなりしやほんいん 王地山稲荷社本院	未指定有形 (建造物)	デカンショ節「花のお江戸で平左衛門が 天下無敵の勝名乗り♪」と歌われる平左衛門は、篠山藩主青山忠裕が老中を勤めた文政年間の頃、江戸両国の將軍上覧の大相撲で、篠山藩のお抱え力士たちは連敗していた。ある年、篠山から来た王地山平左衛門ら8名の力士たちが現れ連戦連勝してしまった。忠裕は喜び、褒美をとらそうとしたがどこにもいなので調べてみると、全員が領内のお稲荷さんの名前だったと云う伝説が伝わっている。王地山はもみじの名所でもあり、負けきらい稲荷として多くの参拝者が訪れる。
9	やかみじょうあと 八上城跡	国史跡	デカンショ節「島と浮かぶよ 高城山が 霧の丹波の 海原に♪」と歌われる八上城跡は、高城山に本城があり、織田方の明智光秀による丹波攻略の主戦場として、また近接する近世城郭篠山城と対比する城として日本城郭史上貴重な遺構となっている。
10	ささやましふくすみでんとうてき 篠山市福住伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国重伝建	デカンショ節「夜霧こめたる 丹波の宿の 軒におちくる 栗の音♪」と歌われる宿が、宿場の宿を指すものであるかは定かではないが、江戸時代、旧山陰街道が貫く福住には本陣がおかれ、宿場町として賑わった。宿場町に連なる農村集落は茅葺農家でありながら宿場を補完する役割を担ったとされ、この歌の情景そのままの歴史的景観を今に伝えている。
11	にしおけじゅうたく 西尾家住宅 (主屋他10件)	国登録	デカンショ節「灘の名酒はどなたがつくる おらが自慢の丹波杜氏♪」全国でも名高い丹波杜氏だが、西尾家はその技術をもって江戸時代から篠山藩ご用達として酒造業を営んでいた。江戸時代後期の俳人西尾武陵の生家でもある。享保18年(1733)建築の主屋を屋敷景観の中核とし、旧山陰街道の街道景観形成に寄与する貴重な建物である。
12	たんばたちくいかま(さくようぎほう) 丹波立杭窯(作窯技法)	国選択 県有形 (民俗)	デカンショ節「嫁がほしゅうて 轆轤を蹴れば 土はくるくる 壺になる♪」と歌われる丹波焼は日本六古窯として知られ、現在でも大規模な製陶工場等はなく、各窯元はほとんどが家内制で約60軒の窯元が丹波焼を生産している。丹波焼における連房式登窯は近世初頭と言われており、この時期に穴窯から登窯に移行したものと考えられており、窯の全長が40メートル以上と長いことも窯の特徴の一つとなっている。また、古丹波コレクションとして312点が県指定文化財として丹波古陶館に保管され一般・公開されている。
13	たんばたちくいのぼりがま 丹波立杭登窯	県有形 (工芸品)	

14	たんぼとうじ (しゅぞうぎじゅつ) 丹波杜氏 (酒造技術)	未指定 (民俗)	デカンショ節「灘の名酒は どなたがつくる お らが自慢の 丹波杜氏♪」と歌われる丹波杜氏は その名声は古くより聞こえ、その歴史は宝暦年間 (1751) にさかのぼる。「出稼ぎしよ」は「デカ ンショ」の語源の一つとも言われている。昭和初 期には杜氏約 780 人、蔵人を合わせ約 4100 人が 海外を含む各地で活躍した。高度経済成長ととも に、厳しい作業環境を敬遠され、機械化で省力化 も進み、現在は杜氏 40 人、蔵人約 130 人となっ ている。	
15	まるやましゅうらく 丸山集落	未指定 (伝統 的建造物群)	デカンショ節「雪がちらちら 丹波の宿に 猪が 飛びこむ 牡丹鍋♪」と歌われる情景が丹波篠山 にある。丸山集落は篠山城下から約 3 キロ北部の 多紀連山山麓にある集落で、総家屋数 12 件の旧 茅葺民家が特徴となっている。傾斜を活かし石積 みと一体となった戌亥蔵と築地塀に囲まれ、妻入 りや中門づくりの茅葺民家が今も現役として残 り 3 棟の民家が農家民泊 (オーベルジュ) として 活用されている。	

※デカンショ節出典 「篠山の民謡」昭和 32 年 篠山民謡保存会発行、「丹波篠山デカンショ祭五十回記念誌」平成 14 年 デカンショ祭 50 回記念事業特別委員会発行

- (※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例: 国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。
- (※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧

### 1 デカンショ節



### 2 篠山城跡



### 3 篠山城下町地区



### 4 小田垣商店



5 鳳鳴酒造



6 旧安間家住宅



7 青山歴史村 (旧澤井家長屋門、大学衍義補版木)



8 王地山稲荷社本院



9 八上城跡



10 篠山市福住伝統的建造物群保存地区



11 西尾家



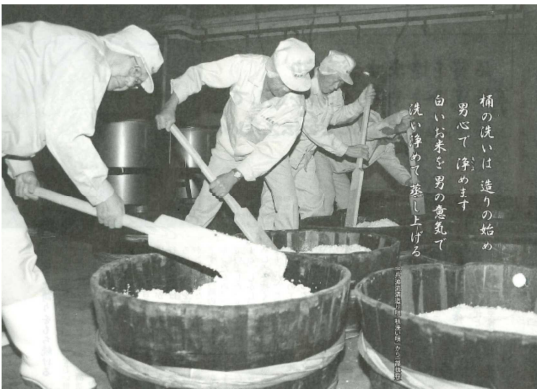
12 丹波立杭窯



13 古丹波コレクション



14 丹波杜氏



15 丸山集落

